

2025/5/22
福岡県気候変動適応推進協議会

「日本の気候変動2025」の公表

今夏の天候の見通し

福岡管区气象台 気象防災部
気候変動・海洋情報調整官
清家 裕喜

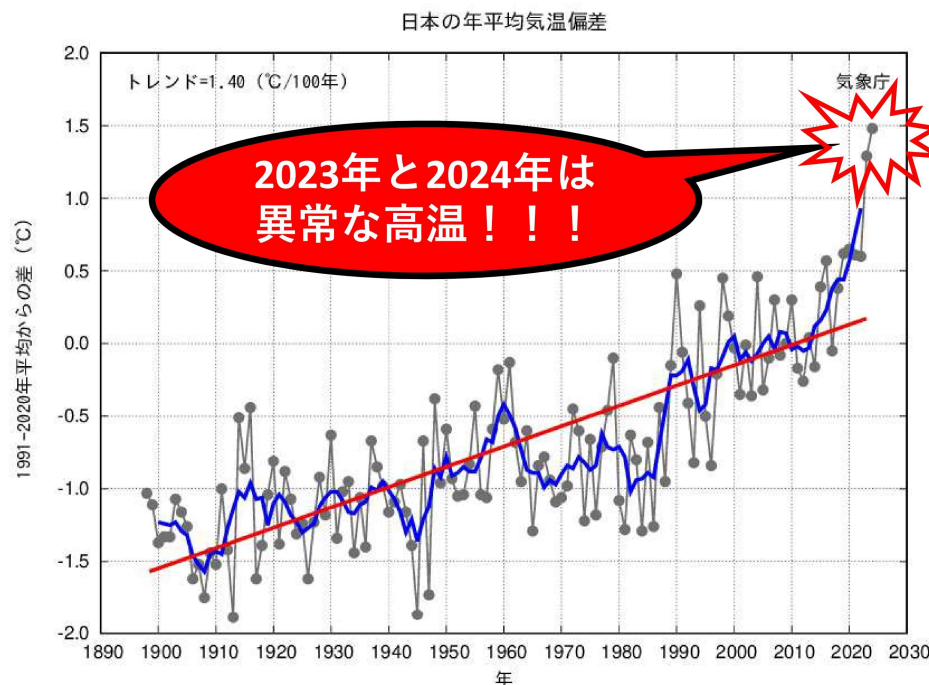
本日本話する内容

- 日本の平均気温の上昇傾向の現状
- 2024年の高温
- 「日本の気候変動2025」の公表について
- 今夏の天候の見通し

日本の平均気温の上昇傾向の現状

- 100年あたり **1.4°C** の割合で上昇（99%有意）
- 1990年代以降、高温となる年が多くなっている
- 2024年は、統計開始以降歴代1位の高温

日本の年平均気温偏差の経年変化（1898年～）



各点：各年の年平均気温の基準値からの偏差
青線：5年移動平均
赤い直線：長期変化傾向
基準値：1991～2020年の30年平均値

年平均気温偏差の高い方からの順位

順位	年	平年差
1	2024	+1.48°C
2	2023	+1.29°C
3	2020	+0.65°C
4	2019	+0.62°C
5	2021	+0.61°C

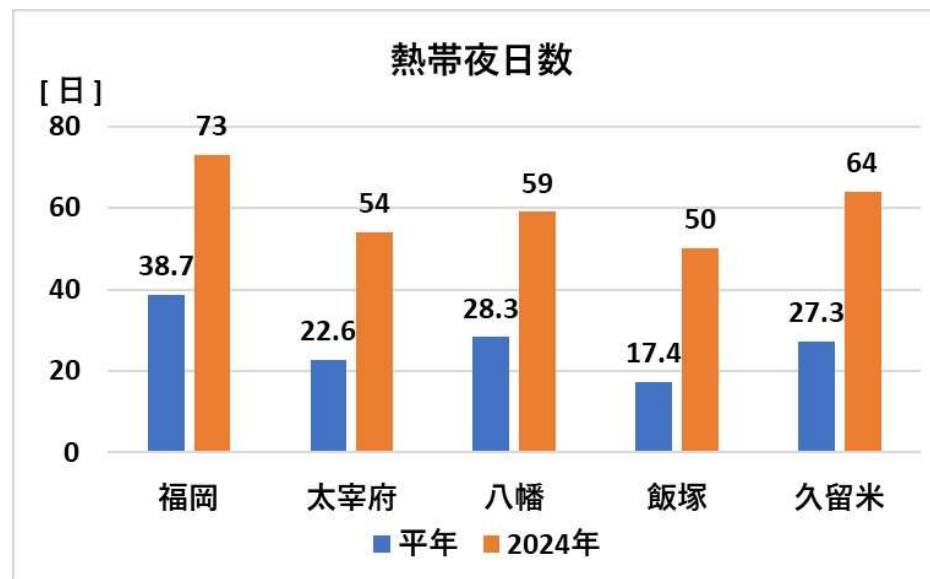
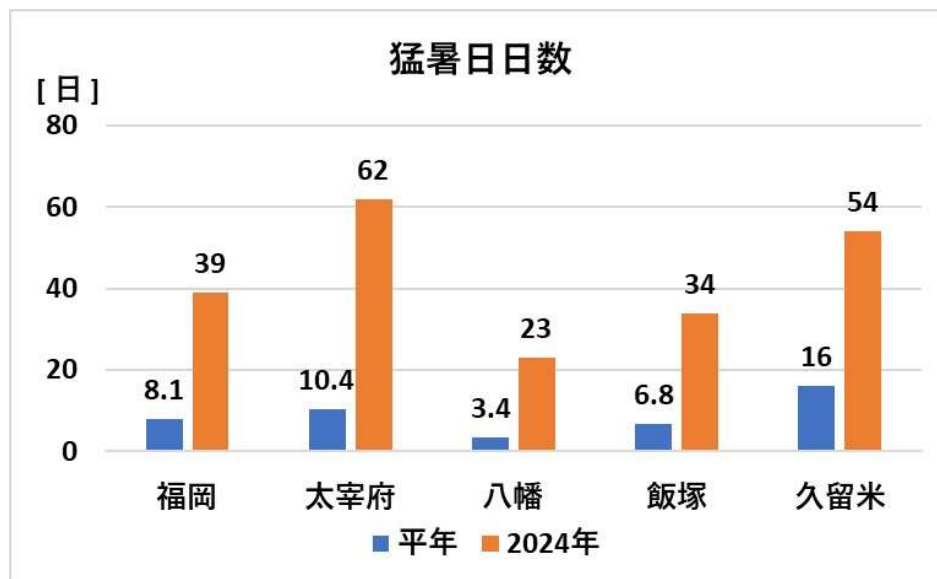
出所：気象庁HP「日本の年平均気温」
https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/an_jpn.html

※網走、根室、寿都、山形、石巻、伏木、飯田、銚子、境、浜田、彦根、宮崎、多度津、名瀬及び石垣島
(観測データの均質性が長期間確保でき、かつ都市化等による環境の変化が比較的小さい地点から、地域的に偏りなく分布するように選出)

2024年の高温

2024年は暑かった。猛暑日は平年の3倍以上、
熱帯夜も平年の1.5倍～2倍

2024 年の猛暑日と熱帯夜の日数



※太宰府では62日間の猛暑日を観測し、猛暑日日数の日本記録を更新

「日本の気候変動2025」作成の経緯

● 世界の動き

気候変動が世界及び各地域で進行

→ 2015年にパリ協定の採択・発効（2℃目標）

● 気象庁・文部科学省

気候変動対策の基盤情報として自然科学的知見を取りまとめ

→ 2020年に『日本の気候変動2020』を作成

✓ 国民、事業者、地方公共団体、国などが

気候変動に関する適応策を作成する際に利用いただくことを想定

✓ 小中高の教育現場でも広く教材として利用できるような構成

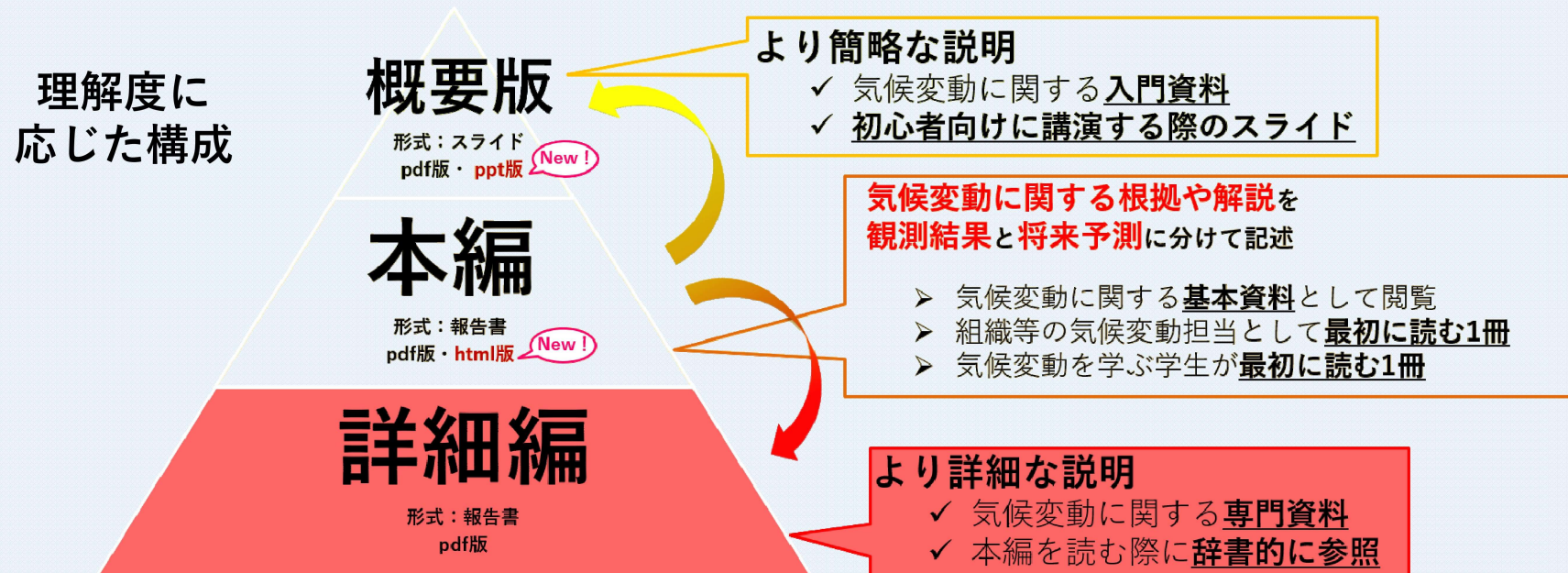
最新の知見・成果を盛り込んだ『日本の気候変動2025』を作成

→ **2025年3月26日公開！**

「日本の気候変動2025」の公表について

日本における気候変動に関して 最新の観測結果と将来予測を取りまとめた資料

- ✓ 日本及びその周辺における **大気中の温室効果ガス** の状況
- ✓ 気温、降水、海面水位、海水温などの **観測結果** と **将来の気候予測**
- ✓ 将来の気候は、以下の2つのシナリオに基づき予測
 - 「**パリ協定の2°C目標が達成された世界**」 2°C上昇シナリオ
 - 「**追加的な緩和策を取らなかった世界**」 4°C上昇シナリオ



「日本の気候変動2025」リーフレット

気温の上昇

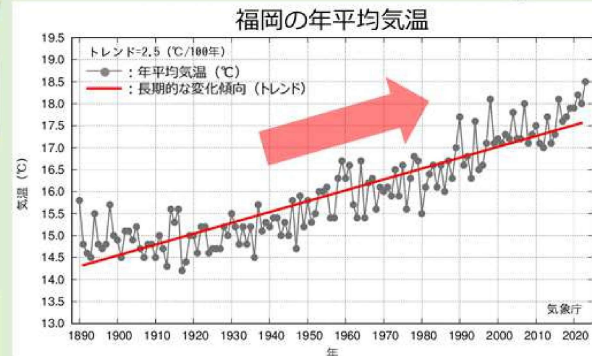
これまでの変化

100年あたり
2.5℃上昇※

※右のグラフのデータから算出した
100年あたりの平均的な上昇率です。

最新の変化傾向は、
A-PLAT「気象観測
データの長期変化の
傾向」をご覧ください。

<https://adaptation-platform.nies.go.jp/data/jma-obs/index.html>



21世紀末の予測

⚠ 熱中症等のリスク増加

福岡県の年平均気温は、20世紀末と比べて、

2℃上昇シナリオで約**1.3℃**、4℃上昇シナリオで約**4.1℃**上昇

年間猛暑日数 3日 → **約9日** / **約33日**

年間熱帯夜日数 13日 → **約31日** / **約74日**

日数は左から、福岡県平均の20世紀末の観測値、21世紀末（2℃ / 4℃上昇シナリオ）の予測値

猛暑日は日最高気温が35℃以上の日です。

熱帯夜は夜間の最低気温が25℃以上の日を指しますが、ここでは便宜上、日最低気温が25℃以上の日を熱帯夜として扱っています。

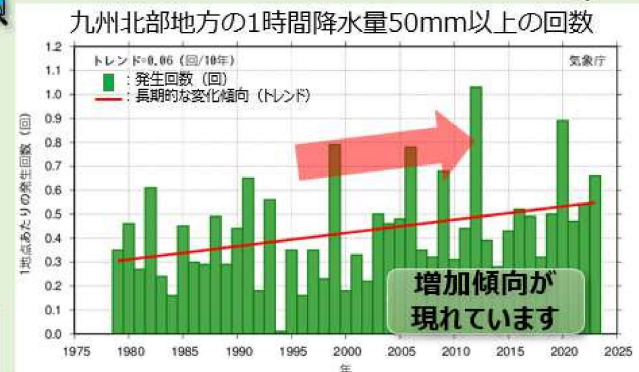
大雨の増加

これまでの変化

気象庁では、甚大な被害をもたらした「平成30年7月豪雨」には、地球温暖化に伴う水蒸気量の増加も影響したと評価しています。

最新の変化傾向は、
A-PLAT「気象観測
データの長期変化の
傾向」をご覧ください。

<https://adaptation-platform.nies.go.jp/data/jma-obs/index.html>



増加傾向が
現れています

21世紀末の予測

傘は全く役に立たなくなる
ような降り方です

九州北部地方の1時間降水量50mm以上の年間発生回数は、
20世紀末と比べて、

2℃上昇シナリオでは約**1.6倍**、4℃上昇シナリオでは約**2.8倍**に増加

⚠ 土砂災害や洪水等の災害リスク増加

21世紀末の予測：4℃上昇シナリオにおいては、20世紀末と比べて

✓ 福岡県の猛暑日日数、熱帯夜日数が**大幅に増加**する予測！

✓ 九州北部地方の1時間に50mm以上の大雨の回数が**3倍弱に増加**する予測！

「日本の気候変動2025」リーフレット

■ 温暖化の程度に応じた予測

20世紀末には100年に一回しか起こらなかった大雨※¹が**より頻繁に**

九州北部地方 の予測

100年当たり
の発生頻度

温暖化の程度

1.5℃上昇

2℃上昇

4℃上昇

20世紀末

2023-2042年頃

2018-2037年頃

※²

2032-2051年頃

2075-2094年頃

1回

約**1.5回**

約**1.4回**

約**2.5回**

観測データ※³による推定では、
100年に一回の大雨（日降水量）
は、**福岡では約278mm**です。
温暖化が進むと、こうした大雨が
より頻繁に発生します。

※¹ ここでは日降水量に基づく結果を示します。

※² 2031-2050年頃に2℃上昇となる可能性はあります。

※³ 1976-2023年のうち利用可能な観測データです。

詳しい情報は、気象庁ホームページ
「極端現象発生頻度マップ」をご覧ください。



各シナリオにおける
おおよその年代

2℃上昇シナリオ

4℃上昇シナリオ

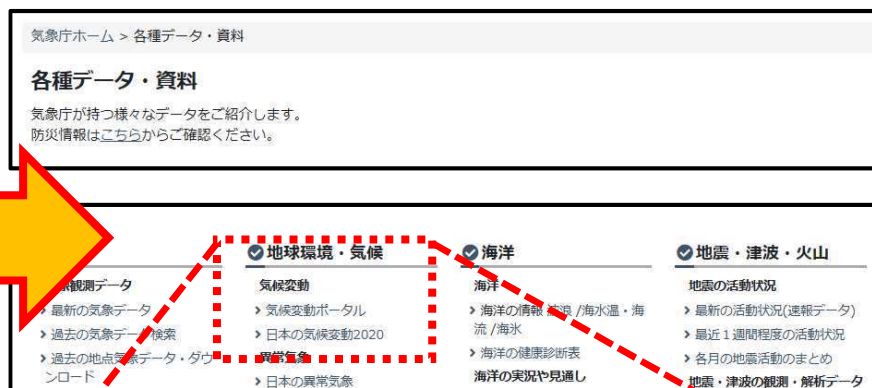
平均気温が4℃上昇した場合、20世紀末に100年に一回しか起こらなかった大雨が
21世紀末には約2.5回に増加する予測！

「日本の気候変動2025」入手方法

気象庁HPトップページ



「各種データ・資料」のページ



日本の気候変動2025

「日本の気候変動2020」の後継として、より充実した内容の「日本の気候変動2025」を2025年3月26日に公表しました。



地球環境・気候

気候変動

気候変動ポータル

日本の気候変動2025

こちらです

日本の気候変動2025のURL（リーフレットもあります！）

<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ccj/index.html>

「日本の気候変動2025」

- 「日本の気候変動2025」は日本の気候変動に関して最新の観測結果と将来予測をまとめた資料
- 国や自治体等が、気候変動に対する適応策の作成に際し、利用いただける資料
- 気候変動に関して、小中高の教育現場でも広く教材としても利用できるような構成

広くご活用いただけると幸いです

<<「日本の気候変動2025」に関するお問い合わせ先>>

福岡管区気象台気象防災部
地域防災推進課 地球温暖化情報官（花房）
電話 092 - 725 - 3614

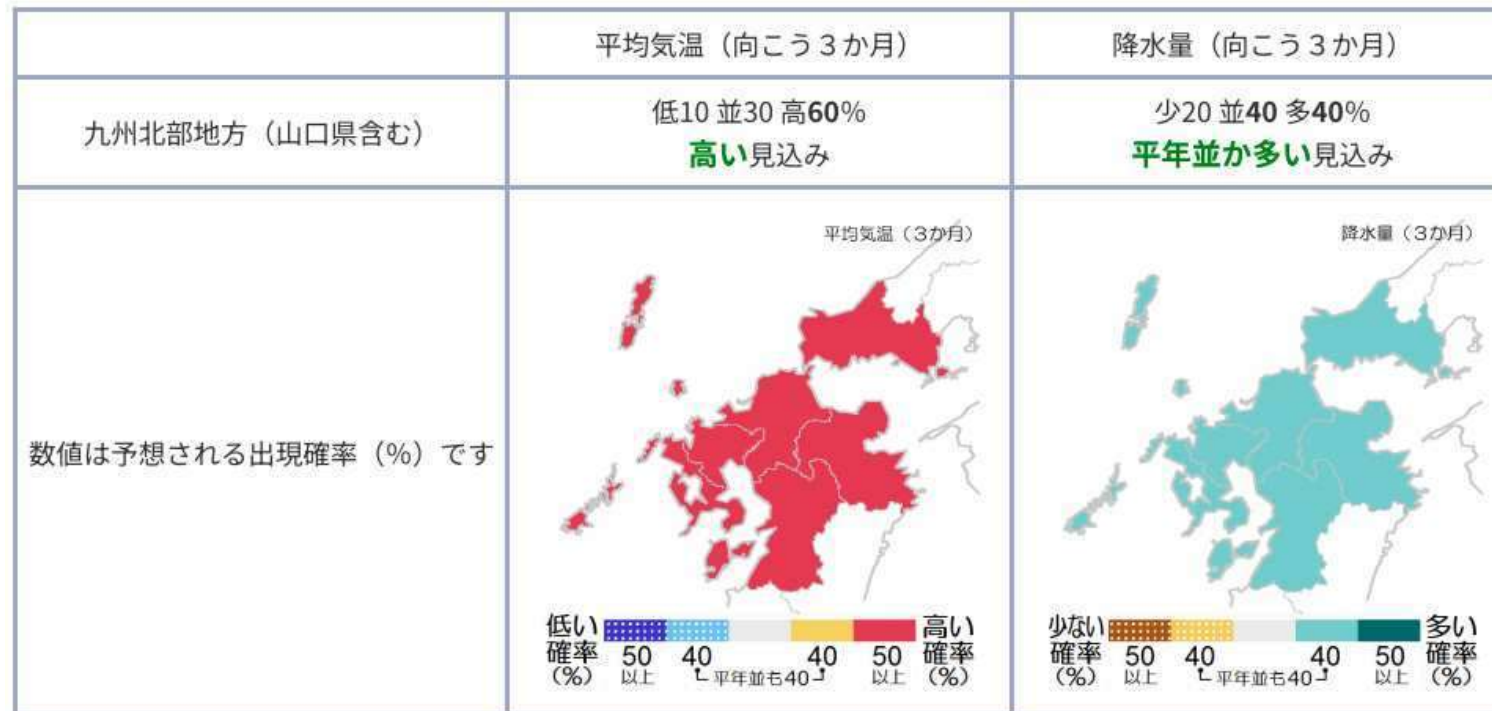
今夏（6月～8月）の天候の見通し

5月20日発表

予報のポイント

- 向こう3か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、高いでしょう。
- 向こう3か月の降水量は、前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年並か多いでしょう。

向こう3か月の平均気温・降水量



過去10年の夏の天候の特徴

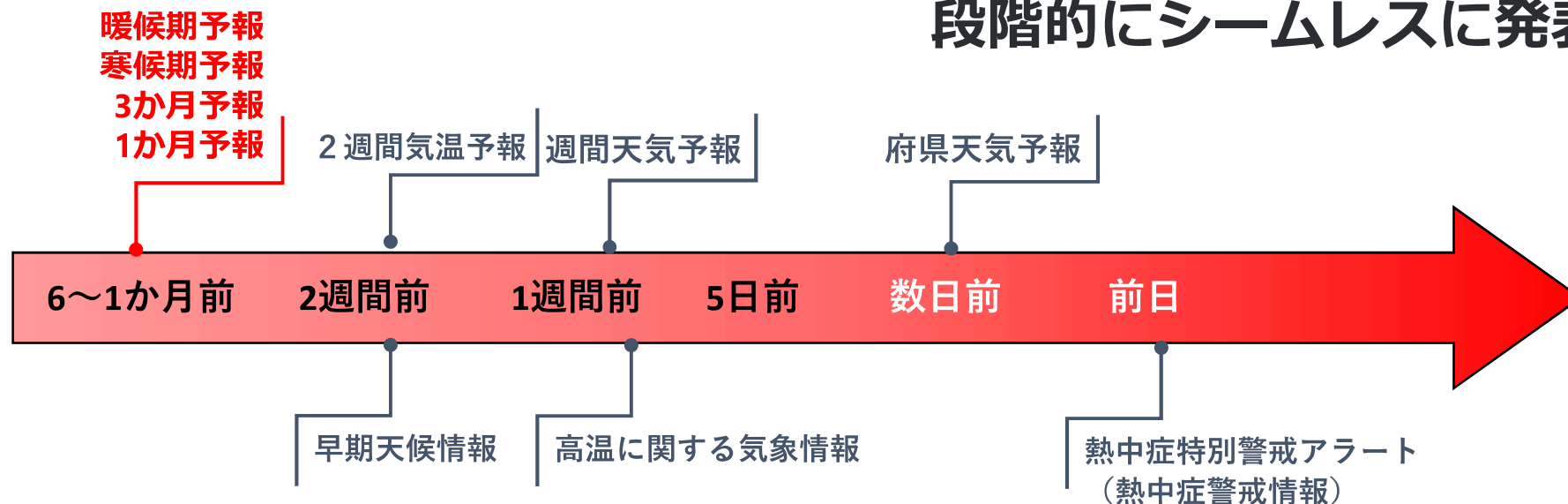
近年の夏の特徴

期間	九州北部地方 気温 平年差℃	夏の天候の特徴
2015	-1.0 (かなり低い)	低気圧や前線の影響を受けた日が多く、低温・寡照の不順な天候が続き、2014年から2年連続の冷夏
2016	+0.6 (高い)	6月は梅雨前線が活発で多雨・寡照。8月は高気圧に覆われて高温・少雨、統計開始以降、1994年と並ぶ1位タイの多照
2017	+0.7 (高い)	梅雨期間が記録的に短く、少雨・多照。7月上旬に「平成29年7月九州北部豪雨」
2018	+1.1 (かなり高い)	太平洋高気圧や（上層の高気圧である）チベット高気圧の勢力が平年に比べ強かったため、2013年と並ぶ記録的な猛暑。7月上旬に「平成30年7月豪雨」が発生
2019	-0.4 (低い)	6月は少雨・多照。7月と8月は前線や湿った空気の影響を受けやすかったため多雨・寡照となり特に8月は顕著な多雨
2020	+0.3 (平年並)	6月は統計開始以降、2005年と並ぶ1位タイの高温。7月は「令和2年7月豪雨」が発生するなど統計開始以降、1位の多雨
2021	+0.3 (平年並)	6月から7月は少雨だったが、中旬を中心として長雨が続き8月は、統計開始以降、1位の記録的な多雨
2022	+1.1 (かなり高い)	夏としては2018年と2013年に並ぶ記録的な高温（当時の1位タイ）、特に6月下旬は高気圧の張り出しが強まったため、統計開始以降、旬としては1位の高温
2023	+1.0 (かなり高い)	暖かい空気に覆われやすかったほか、南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、顕著な高温だった
2024	+1.4 (かなり高い)	暖かい空気に覆われやすかったほか、7～8月を中心に高気圧に覆われやすく、統計開始以降1位の記録的な高温となった

 がついている年は、福岡県に大雨の特別警報が発表された年

高温に関する情報

段階的にシームレスに発表



種類	発表タイミングと内容
早期天候情報	発表日の6日後から14日後までを対象として、5日間平均気温が「かなり高い」もしくは「かなり低い」となる確率が30%以上と見込まれる場合に発表。
高温に関する気象情報	2日先から7日先までの期間において、高温が予想される場合に発表。 - 環境省が熱中症特別警戒アラートを発表した時に発表。
熱中症警戒アラート (熱中症警戒情報)	全国を58に分けた府県予報区等を単位として、発表対象地域内の暑さ指数(WBGT)算出地点のいずれかで日最高暑さ指数33以上と予測した場合に、環境省と共同で発表。

今夏の天候の見通し

- 今夏の気温は平年より高い予報
- 梅雨の時期は、梅雨前線の活動が活発となる時期もある
- 降水量は平年並の予報だが、大雨シーズンでもあるため、最新の気象情報にご留意ください



気象庁は、
明治8年（1875年）に観測業務を開始して以来、
今年で150年を迎えます。



「歩み続けて 150 年 防ぐ災害・守る未来」